

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490600014
法人名	医療法人 末広
事業所名	グループホーム無量寿
訪問調査日	平成19年 7月20日
評価確定日	平成19年 9月12日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4490600014
法人名	医療法人 末広
事業所名	グループホーム無量寿
所在地	臼杵市大字末広915番地 (電話)0972-64-7338

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年 7月20日	評価確定日	平成19年 9月12日

【情報提供票より】(平成19年6月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 8月9日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤	人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	純和風木造瓦葺平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,500~58,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白川病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 建物は趣がある和風の外観で、室内は木材をふんだんに使い暖炉のある温かみを感じられる作りになっている。
2. グループホームは開設して1年であるが、隣接する病院が築いてきた地域とのよい関係がそのまま引き継がれており、本・家族・地域・市を含めた関係作りができています。
3. 職員は管理者のもと理念の実践に向けて協力し合っており、利用者本位で共に生活していこうと高い意識をもって日常のケアに取り組んでいる姿勢がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回初めての評価のため、前回の改善点はなし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価に際し、事前に全職員で「自己評価票」に書き込み、カンファレンスを行い検討している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会は2ヶ月毎に開催し、ホーム側の報告や意見などをサービス向上へ向けた取り組みに活かすような体制作りをしている。また、市内グループホームのネットワーク作りの提案が市からあり、今後取り組んでいく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置、面会や行事参加時に意見や希望を話してもらえりような関係作り、運営推進会議への家族代表の参加など行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の保育園が甘茶の行事でお神輿を引いて訪問、地域の民生児童委員協力でハーモニカやオカリナの演奏会を開催、地域の方から定期的に野菜を購入したりしている。また、職員が地区の懇親会に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い年度毎にグループホーム独自の理念を作成している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所へ掲示し、共有している。また、日頃から理念に立ち返りチームで協力してケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園が甘茶の行事にお神輿を引いて来てくれたり、家族ボランティアの音楽演奏活動・ボランティアの皿回しや演劇・地域の懇親会へ職員が参加するなど地域の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前に全職員で自己評価票を記入し、カンファレンスを行い検討している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回、家族・市職員を交えて開催し、ホーム側の報告をもとに参加者から、意見、要望などを受けサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設にあたり、市や社協に相談している。また、市からグループホームのネットワークづくりについての提案もあり積極的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の便りの送付や、家族の面会時には写真等により日頃の暮らしぶりなどを伝えている。また、金銭管理を行っている入居者については、小遣い帳を作成し、定期的に家族の確認、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・運営推進会議への家族の参加、面会時に意見や要望を聞き取るなど、意見を反映できるように取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全て正職員であり、ユニットごとに職員を固定して顔なじみの関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部の研修に積極的に参加し、その内容は全職員で共有できるように会議等で報告をしている。また、事例検討発表を行い、職員同士協力し合ってレベルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設にあたり、他のグループホームを見学し、勉強会なども行っている。同業者とのネットワークづくりは未だ行われていない。	○	市からの提案により市内のグループホームネットワークづくりをしており、サービスの質の向上に向けて取り組むことになっているので成果を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用の方には、見学や体験を通じて馴染みながらサービスを用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や日々の暮らしから本人の趣味や特技を把握し一緒に取り組み、職員は本人が何を考えているのか常に考え、気持ちに寄り添い、共感する関係づくりをしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに「1日の流れ」を作成し、その時の気持ちや求めている事を探り、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成や見直しの際は、その都度本人・家族から希望を聞き、スタッフ全員で意見を出し合いながら行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しとともに、毎月全職員参加でケアカンファレンスを行い、必要な際には随時本人・家族・スタッフで話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイケアの夏祭り行事への参加や、本人の顔見知りの方が利用する際に会いに行ったり、隣接病院で開催される陶芸教室へ参加するなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や・隣接の病院、訪問歯科診療など適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について入所時に説明し、本人・家族との同意書やマニュアルがあり体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の法人での会議や新人研修等で接遇や個人情報についての研修を行い、プライバシーに配慮した対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて食事時間を調整するなど、できるだけ思いや希望に添った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、希望を取り入れてメニューを作ったり、食事の準備や片付けを一緒に行うなど、食事が楽しめる支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っており、本人の希望やタイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした趣味や日常生活の中で、食事の準備や片付け・洗濯物干しや畳み・陶芸・計算ドリルなどの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を行い、買物や図書館へ行くなどできるだけ希望に沿った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンを把握して安全面の配慮をし、日中は鍵をかけないケアを行っている。また、車の出入りが多い駐車場に面した玄関前の通路はプランターや鉢植えを置き安全対策をする等の工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回・グループホーム独自で年1回定期的に防火訓練を行っている。また、非難経路を日常の散歩と同じコースにしているため、非難訓練がスムーズに行えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日確認し、記録している。また、献立は定期的に管理栄養士が確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木のぬくもりが感じられ温かみのある場所であり、暖炉や和室、季節感が感じられる七夕飾りや利用者が書いた絵を飾るなど、居心地よく過ごせる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や趣味のカラオケセット、手作りのパッチワークや使い慣れた家具などがあり、居心地良く過ごせる場所になっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム無量寿
(ユニット名)	故郷
所在地 (県・市町村名)	臼杵市大字末広 915番地
記入者名 (管理者)	江藤 千代子
記入日	平成 19年 5月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>昨年8月開設ですが、職員全員で話し合い住み慣れた地域での一人ひとりが安心した楽しい暮らしができるようにと介護理念をつくりました。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>介護理念を職員間で共有し日頃の介護に生かせるように、目に付くところに掲示し、ケア記録ファイルに貼り毎回見えるようにしています。また合同カンファレンスなどで職員全員で確認しています。日々の介護場面で、介護理念がチームケアの根源になっています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>開設時に地域の方々やご家族の皆さんに事業所の理念について説明会や見学会で説明いたしました。またグループホーム内に掲示して見学時や来訪時に見ていただき説明しています。グループホームの案内パンフレットにも記載しております。毎月のグループホームだよりに記載して家族の方等に配っております。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所に散歩に出かけるときは挨拶したり会話するようにしています。庭の草花を見せてもらったりなるべく交流をもてるように努力しています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の婦人会や老人会、民生委員等に見学会や説明会に参加してもらい、説明や協力をお願いしています。地元の方々から季節の新鮮な野菜や果物、お米などの食材を購入しています。地域の保育園児と入居者でふれあい交流会で楽しい時間を持っています。地区の民生委員その他のボランティア等が交流して下さいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や婦人会、民生委員、隣保班方などに見学会や説明会を行っている。認知症でお困りの家族にはその都度ご相談にのっています。老後の生き方については各自常々考えて頂くものと思っておりますが、このグループホームでの生活の仕方が参考になれば良いと考えています。	○	地域からの要請があれば、認知症介護の経験を基に、職員の能力に応じてなにか地域貢献になることをしていきたいと思っております。なお施設長は地区の福祉推進協議会に参加して、折々認知症について、説明や講演をしています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について職員全員で勉強会をもち取り組みました。開設半年後と今回職員全員で自己評価を行い記入しました。今後サービスの向上につなげていきたいと思っております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や利用者、地域住民、市行政職員、地域包括支援センターなどの方々に参加していただき、事業所の活動や状況の報告を行い、参加者の方から意見や質問など頂いて、お互いに情報交換を行い、事業の向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回市の職員の方には運営推進会議に参加していただき、情報交換や情報共有をしております。なにか分からないときは市の担当の方に相談して事業運営の向上に取り組んでいきたいと思っております。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	随時、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、利用者が必要になったときに、それらを活用できるよう支援していきたいと思っております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について取り組み、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、時間を十分にかけて、特に料金やリスク、医療体制など、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得るようにしています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から要望や意見を聞き、それらを運営に反映させる努力をしています。意見を十分に表せない利用者については、言葉やしぐさ、態度から思いや不安、好き嫌いなど推し量るように努めています。それらの情報は合同カンファレンスで職員全員で共有して検討しています。意見箱も設置し、嗜好調査も行っています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が訪れたときは必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりやエピソード、健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等にこまめに報告をしています。利用者には何かあればこまめに家族に電話で報告をしています。毎月定期的にグループホームたよりを送りその月の状況や行事の様子などをお知らせしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には常に声をかけて、気軽に意見、不満、苦情言っていただけるような雰囲気作りを心がけています。来訪時もこちらから何かありませんかと声をかけています。意見箱も設置しています。意見が出されたら施設長や管理者、職員全員で話し合い、前向きに運営に反映させていきたいと思っております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は、普段から言いやすい雰囲気作りを心がけて、運営に関する職員の意見や提案を聞くようにしています。合同カンファレンスで自由に意見を言う機会を設けています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由な個別的な暮らし方を支援できるように職員のローテーションを組んでいます。行事やその時々に応じられるように柔軟な勤務体制を心がけています。必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>故郷では一人の職員が怪我で休み、一人職員が補充されたが、怪我した職員が職場復帰後も補充の職員も引き続き仕事しており開設後まだ配置転換がなく、なじみの職員が介護している。運営者は、利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
介護			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内研修会が毎月あり誰もが参加できる。また合同カンファレンス時に伝達報告を行っており全職員が研修内容を把握できる。事業所外の研修にも参加できる。日頃の介護の実践が学びにつながるように努めています。また職員が働きながら資格が得られるように、事業者は協力的です。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設前に運営者や職員で他のグループホームに見学に行き、いろいろ教えてもらいました。また研修で実習させてもらいました。その後も他施設の方に相談してアドバイスをいただきました。今後もサービスの質を向上のために交流する機会を持ちたいと思います。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、よく職場を訪れ、管理者や職員と話をし、職場環境に理解があります。職員には身体を休める休憩の場が確保されています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職場をしばしば訪れ、利用者と一緒に過ごし、管理者や職員の仕事ぶりや個々の努力や実績、勤務状況を把握しています。各自が向上心を持って働けるように努め、職員の資格取得に向けて支援しています。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前相談では本人や家族から困っていること、不安なこと、求めていること等把握に努め受けとめる努力をしています。本人の状況を把握する事で信頼関係を築いていきます。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等今までの経緯や現在の状況について、よく聴き、受けとめる努力をしています。事業所としてどのように対応できるか話し合いをします。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人と家族の思い、状況を確認して、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返していき、まず必要としている支援を見極め、必要なサービス利用につなげるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入居されている方はそれまでにデイケアやヘルパーなどの利用者が多く、その職員やケアマネジャーと顔見知りが多くなじみのある関係から開始する事ができた。今後初めての方には見学を充分してもらい、職員や他の利用者と一緒に馴染めるよう家族等と相談しながら安心して利用を開始できるようにします。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いています。人生の先輩である利用者からは教えられる事が多く、また癒される事も多くあり、お互いに協同して生活しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に利用者の思いや日頃の暮らしの様子などをお知らせして家族と職員が、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築くようにしています。また家族の方に職員がどのような思いで利用者の支援をしているかをお伝えしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、家族に誕生会や敬老会、新年会などの行事に参加してもらい、また外出等を一緒にしてもらうことで、家族と利用者のより良い関係を築くように配慮しています。職員は家族と利用者の掛け橋になるように心がけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も引き続きこれまで馴染みの理髪店に行っている方がいます。入居後も定期的に娘と外出して墓参りや仕事場を見に行かれています。近所や知人の方の訪問はゆっくり過ごせるように配慮します。今後も人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めます。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共に楽しく暮らせるために利用者同士の関わり合いが大切であり、利用者同士の関係がうまくいけるように利用者関係を把握し一人ひとりが孤立せず支え合えるように、職員が利用者同士の調整役となっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	故郷では他の事業者に行かれた方や関係が断ち切れた方は今までにいませんが、今後あるようでしたら、関係を断ち切らないつきあいを大切にしていきたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にどのように暮らしたいかお聞きしたり、日ごろの関わりのなかから、言葉や表情などから判断したり、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。把握の困難な方は家族の方と話し合いを持ち、ご本人の生活のいろいろな場面での反応や言葉、表情などを経過観察して、本人本位に検討して把握しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、関係者などから、いままでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を記入していただいたりお聞きして一人ひとりの把握に努めています。入居後も本人に生活のいろいろな場面での昔のことが出ると話を聞いたり、家族からどんな生活をしていたか聞いて把握しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりの一日の過ごし方、どのように思いながら生活しているかを観察し、一日の流れとして記録して職員で把握しました。心身状態、できることなど本人の力等の現状をアセスメントするようにして総合的に把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃から、思いや要望などを聞くようにしています。担当職員や計画作成者が中心になり職員全員で本人がより良く暮らすためのケアについて、アセスメントや意見交換、モニタリングを行っています。本人、家族、職員、主治医など必要な方々から、それぞれの意見を聞いて反映し、介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者、担当職員中心にケアカンファレンスで定期的にモニタリングし介護計画内容を検討し、期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に変化変化した場合は、本人の状況や要望、家族の希望・意見、職員の情報など取り入れ、介護計画の見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別ファイルに、バイタルサイン、食事量、排泄状況、日々の様子や本人の言葉、エピソード、ケアの実践・結果、気づきなどを個別記録しています。その他日誌や連絡申し送り簿など記入し、職員全員で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院併設で24時間の医療連携がとれ、健康管理の面で安心です。デイケアでのリハビリや音楽療法などへの参加も出来ます。希望者は病院の陶芸教室に行つて講師の指導のもと陶芸を楽しんでいます。音楽療法士がグループホームに来てくれ、音楽療法を入居者も楽しめます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者で希望される方には職員が付き添って市の図書館に行つて、本を読んだり借りたりしています。大活字の本や笑い話また紙芝居も好評です。民生委員の方々や地域のかた家族などのボランティアが来て歌や演奏、踊り、折り紙など楽しませてくれます。地域の保育園児との交流訪問も好評です。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地元の方々から新鮮な野菜や果物、お米などを購入し利用しています。地元の美容師さんが毎週病院に訪問してくれるので希望される方は利用しています。地元の福祉業者が福祉用具の相談や販売、配達などをしてくれます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に地域包括支援センターの職員の方に定期的に参加していただき、情報交換や情報の共有をして、困難事例の検討など協働して個別支援、本人本位の支援をしていきたいと思ひます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診しています。通院付き添いは家族の方がされていますが、場合により職員が対応できます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設長が認知症の専門医で、隣接する併設病院にも専門医がいるのでいつも助言が受けられ、必要に応じて相談、受診ができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤の配置されており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えます。看護職員がいないときは、介護職員が隣接している病院に連携が取れるようになっていきます。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には安心して過ごせるよう、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者に情報提供や連携をとりつづけています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を入居時に本人や家族に説明や相談をしているが、そうなった場合は早めに段階的に本人や家族の意向や希望を確認しながら話し合い、個別に支援いたします。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今のところ皆様心身の状態が安定しており、重度化した利用者はいません。入居時にグループホーム無量寿の看取りの指針や同意書について説明をしております。利用者が安心して暮らせるように、今後重度化や終末期については、折々に、本人の気持ちや家族の希望に添っていけるように、話し合いをもちながら対応して行きます。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に行かれた方はいませんが、入院などされた場合は医療関係者に今までの本人の状況や生活習慣や嗜好など情報提供してこれまでの暮らしがなるべく継続出来、混乱しないように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るために、職員は言葉使いやプライバシーを損ねるような言葉かけ、記録などをしないようにしています。個人情報保護に関しての職員の研修会を持ち職員全員が配慮しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに合わせて声を掛け、意思表示が困難な方にはしぐさや表情を読み取るようにしています。できるだけ職員側から押し付けるようなことはせず、利用者が自分で決められるように配慮しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりがどのように思い、どのように1日を過ごしているのかを観察し、把握に努めました。利用者のペースで生活が行えるように留意しています。入浴や散歩などまた自分でしたい家事の事などなるべく利用者一人ひとりの希望に添うようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者がそれぞれ好みのおしゃれや身だしなみができるように配慮しています。入居後もなじみのところに行き散髪される方もいます。髪の毛の長い方は毎朝結髪を手伝っています。着替えや身だしなみが自分で出来る方は自分でされており、着替えやみだしなみが自分で出来ない方は職員と一緒に本人の好みに添うように手伝っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは利用者にしたことやできる事はしてもらっています。野菜きりや皮むき、豆のすじとり、配膳、下膳、台拭き等職員と一緒にしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな食べ物など嗜好調査は入居時の書類にもあり、また利用後もたびたび食べたいものなどを一人ひとり聞いたり、嗜好調査をして毎日の献立やおやつなどのメニューに生かしています。お酒も行事食のときにワインやビールなど希望者は飲んでいきます。タバコを吸われる方はおられません。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣に合わせて排泄できるよう心がけています。必要に応じてパットや紙パンツを使いなるべくトイレやポータブルトイレに行き気持ちよく排泄が出来るように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの希望に添うように本人のペースで気持ちよく入れるように個別に援助しています。介助も個人に応じて行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間散歩や運動、活動の時間を多くとるようにして、夕方からは落ち着いて過ごせるように生活のリズムを整えるようにしています。利用者一人ひとりが、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう個別に援助しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意でしたいことはしてもらい、役割を達成した充実感などを感じてもらっています。できる事したい事を職員が利用者と一緒に捜してアセスメントしていきます。食事作りや掃除、洗濯などの家事、草花の世話、行事の計画など日々の暮らしの役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては家族の了解のもと少額のお金を持ってます。買い物レクでは職員が付き添い、おやつや身の回りのものを本人が選び買い物を支援しました。小遣い帳を職員と一緒につけている方もおります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は活動を多くするようにと、季節を感じられるように、ストレス発散のためにも日常的に日光浴をしたり近所に散歩に出かけています。本人の好みに応じて図書館や買い物に職員が付き添って行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出かけて行きたいところなどを利用者聞くようにして外出の計画を立てています。季節を感じられるように花見や紅葉狩りなど季節ごとに利用者の希望に応じてドライブなどを計画し出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに公衆電話が設置しており、自由に電話をできるようになっている。自分ひとりで電話をかけられない方にはお手伝いをしています。手紙もかける方は書いています。手紙を受け取る時はとても喜んでおられます。いつも新聞の川柳に投稿されている方がいて、ポストに投函するのは職員が手伝っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が気楽に訪問していただけるような雰囲気作りを心がけています。必ず職員のほうから笑顔で挨拶や労いの言葉をかけるようにしています。アルバムの写真を見てもらったり、利用者の近況をお知らせしたりしています。湯茶を出し、ゆっくり話してもらえるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は高齢者の人権尊重、権利擁護の意識を持ち、身体拘束を絶対にしない方針で介護しています。今のところ身体拘束は全くありません。今後も拘束をしないケアを行います。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていません。外に出られる方はさりげなく観察、見守りをしています。日中鍵をかけない生活が開設以来継続できています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は台所仕事や記録中もさりげなく、利用者全員を見守り状況を把握し安全に配慮しています。夜勤では巡視を行い利用者全員の状況を把握しています。職員の部屋にはモニターがついていて死角になる見えにくい廊下等の安全が確認できます。24時間利用者の安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭のように保管していますが、鋏などは危ないと思われる方から見えないように引き出しに入れてあります。洗剤などは利用者から見えにくく手が届きにくい高いところにおいて安全に配慮しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの転倒転落のアセスメントをして、一人ひとりの転倒転落防止対策を立てて安全対策をとっています。職員はインシデント、アクシデントのレポートを提出して毎月カンファレンスで職員全員で情報を共有し予防対策を検討して事故防止に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時の連絡体制、応急手当など緊急時マニュアル夜間緊急時マニュアルがあり、職員も緊急時の対応についての理解をしている。すぐ近くの同じ敷地内に併設の病院があるので、緊急時は24時間速やかに医師や看護婦が対応できます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、法人が行う年2回の防火訓練に参加して消火器の使用訓練や通報訓練、避難訓練など行っています。	○	グループホームにおいても独自に利用者が、迅速に安全に避難ができるように、避難誘導訓練を行っていきます。非常時には地元の方々の協力は今までどおり充分していただけるものと考えています。施設長が地域の方をお願いをしています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては毎月のケアカンファレンスで話し合い、防止策を検討していますが、家族等に説明して本人の履物や衣類など安全面で協力をお願いする場合があります。抑制や錠などの抑圧的な対策は取らず、抑圧感のない暮らしができる対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、記録しています。職員は利用者一人ひとりの普段の様子をよく知っており、変化や異常があれば管理者に相談し医療受診につなげています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり職員は薬の内容を把握しており、利用者がきちんと服薬できているか確認しています。また利用者の状態変化があるときはくわしく記録して看護職員や医師と連携を取れるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の弊害を理解しており、便秘予防に努めています。繊維質の多い食事内容や水分摂取、散歩や体操など活動状態を見直し自然排便ができるように取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を研修会など出学んでおり、食後の歯磨きや入れ歯の洗浄など利用者に声をかけ自分できれない方にはお手伝いをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、一人ひとりの嗜好を知り、美味しく食べてもらえるように献立に取り入れています。摂取量は毎食記録して健康管理に活かしています。食事内容は毎食記録して、栄養士にアドバイスをもらっています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月のケアカンファレンスで感染予防について検討しています。マニュアルがあり予防・対策に努めています。インフルエンザは利用者や職員は予防接種し、ノロウイルスに対しても手洗いの徹底、ペーパータオル、食品管理など予防対策を行いました。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物を行い、新鮮な生鮮食材を調理しています。冷蔵庫内に残りものがないように整理しています。まな板や包丁、食器類は食器滅菌保管庫で清潔を保持しています。清掃やアルコール噴霧等で台所、水周りの清潔保持に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲や玄関先は庭木が多く植えられ、花や木の実で季節感が感じられます。可愛い草花もあり心が和みます。玄関先や裏庭にはベンチが置かれ利用者が日光浴しながらおしゃべりするのに最適です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、明るく清潔にしています。台所から調理の音や味噌汁や煮炊きする美味しそうな匂いがします。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように努力しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや庭などに長椅子やソファ、ベンチを置き、一人や二、三人で居心地よく過ごせる場所があり、くつろぐことができます。畳コーナーに腰掛けて話したり一休みされています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年8月に開設しましたが、施設長はじめスタッフの意欲が充実しています。安らぎや心地よさ、なじみの場、自分の居場所作り、プライバシーの確保、安全への配慮などの多岐にわたる環境作りに力を入れています。利用者一人ひとりの人権を尊重し、本人主体のケア、個別ケア、チームで支えるケアの実践を目指して、担当介護者を決め、ケアカンファレンスで職員全員で情報を共有しケアについて検討しています。グループホーム無量寿の介護理念は「お一人おひとりを大切に、楽しく生き生きと、安心した暮らしができるようお手伝いします」です。利用者一人ひとりが安心して穏やかな日常生活を送ることができるように、またその人らしい楽しみのある暮らしが実現できるようにと努力しています。一人ひとりを大切にしたいとのスタッフの共通思いが強いです。できるだけ自立して、元気に過ごしていただきたいと思っています。新鮮で美味しい食事を食べていただくように、食材選びや献立、調理と食事面にも力を入れています。健康管理・疾病管理の面では看護師の配置があり健康の保持増進に努めていますが、すぐ近くに母体の病院があり、いざというときに迅速に対応ができ安心です。活力のある生活を目指し、散歩や筋力アップの体操やストレッチ、嚥下体操など毎日しています。利用者一人ひとりのできること、したいことを本人と職員で探しながら、ご本人にグループホームの生活の中で役割意識ややりがいを感じて活気を持ってもらえるようしています。買い物レクや花見、紅葉狩り、季節ごとの行事、誕生会、ボランティア・近隣の保育園や民生委員、地域の方々との交流など楽しく行っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム無量寿
(ユニット名)	山茶花
所在地 (県・市町村名)	臼杵市大字末広915番地
記入者名 (管理者)	平野初恵
記入日	平成 19 年 5 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input type="checkbox"/> 入居当初より独自の理念を作り全スタッフには常に頭にいらしてもらっている。ホーム内にも明示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 介護理念を明示し、利用者様お一人お一人を大切にされたケアに取り組んでいくよう努力している。カンファレンスやケアプランの見直しにはその方針に基づいて進めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 入居時にわかりやすく説明しホーム内にも明示している。毎月の無量寿だよりも明記している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="checkbox"/> 近くを散歩したり声掛けをしていつも気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。地域の方からお花や野菜をもってきてもらったりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 入居当初はご近所や婦人会や民生委員の方などを招いて見学会や説明会をした。日ごろから気軽に交流できるように努めている。地域の方や民生委員さんの関係でハーモニカやオカリナ演奏会をしてもらったりしている。地域の方から定期的に野菜も購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方の訪問あるいは利用者様との交流には応じている。施設長は折々、上北地区福祉推進協議会(約50名で構成)に参加して意見交換を行っている。</p>	○	<p>地域の方々には施設の見学等は制限なくオープンにしているため、それを見ながら自分の老後は如何に生きていけばよいか考えていただくチャンスにさせていただければと思っています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員で評価項目についてカンファレンスを行い、不十分な点は十分に検討し、向上していくように認識を深めていくようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者様の状況やサービスの実際などを報告しいろいろな意見を今後のサービスに活かせるように努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議ではアドバイスやご意見をいただき、サービスの質の向上をめざしている。いろいろな状況でわからないことや疑問点があればいつでも連絡が取れるようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員の数名は市の研修会に参加している。現在、対応が必要な利用者がいないので活用していないが随時必要な人がいれば話し合いや関係機関への橋渡しなど支援していきたい</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の研修会などで高齢者の虐待や拘束について学習し高齢者や認知症患者の接し方、介護については周知徹底している。常に利用者様の心身の状況を把握して虐待が見過ごされることがないように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書と契約書をよく理解してもらい、利用者様やご家族に十分説明し、わからないことや不安なことがないか確認した上で手続きを行っている。特に利用料金や重度化した時の対応、医療連携体制についてはよく説明し、随時連絡を蜜に取って、ご家族と相談をしながら対応して行くことを説明する。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の要望や意見は日頃より聞くようにしている。例えば食事は定期的に嗜好調査を行っている。レクリエーションや活動についても各利用者様の希望を聞きだすようにしている。ケア会議やカンファレンスで利用者様については意見交換を行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時にはお茶などをだして日頃の様子やエピソードを伝えたり、写真や作品があればみせている。毎月無量寿だよりにより行事等の紹介も行っている。いつでも気軽に声を掛けていただけるように良い雰囲気作りにつとめている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御意見箱をホーム内に設置している。また面会時や行事などで見えたときにはご意見や要望、不満があれば遠慮なくいってもらうように話している。なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。今のところ苦情はないが、苦情があれば早急に課題を検討していき、質の向上をめざしていくようにする。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケアカンファレンスやミーティングで意見を聞くようにしている。また日頃から何でも現場の職員の声に耳を傾けるように努めてよい職場になるように雰囲気作りに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や状況に応じて職員の配置を考えている。サービスが十分行えるように勤務体制ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に、各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。新人職員が入った場合はきちんと利用者に紹介しケアの継続に必要な申し送りなどは十分に行い、把握してもらいスムーズにケアができるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会や会議にはできるだけ参加し、参加者は月1回の会議で全員に報告するようにしている。また運営者は段階に応じて市や県の研修会にも参加させて職員育成を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には他のグループホームへの見学や研修を重ねサービスの質の向上をめざして勉強会などを行った。開設後も他のホームへの見学は行ったが積極的な交流会や勉強会などはまだ行っていない。	○ 同業者との相互研修会や事例検討会などを通してサービス水準の向上につなげていきたいと考えているが事務局は市役所をお願いしたい。各々の施設が努力していくことが大切であり、白杵地域には三つの施設があるがもっと幅広い交流が必要であると思う。管理者研修やその他の関連する研修には毎年職員を派遣する予定である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員の話をおきいてくれ、現場の状況を把握してくれている。職員間の親睦会や慰労会などで気分転換をしたり、各自の趣味などでストレス発散に努めている。休憩室も設備が整っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は時々現場にきて利用者とはすごしたりし、日ごろの活動状況や職員の勤務状況などを把握している。また職員の資格取得に向けた支援も行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、相談にみえたときには本人の話をよく聞き、今の状況での問題点を把握して、安心感と信頼関係を築けるようにより雰囲気作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をおきいて、ご家族が困っていることや、何を希望しているのかを聞きだす。利用を前提に話を進めるのではなく、今の状況は何かが一番必要かをゆっくりと話を聴くようにする。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聴いた上で、本当に希望するサービスは何かを考え、最も希望に近いサービスへつなげるように支援していく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は徐々にホームの生活に慣れてもらえるように少しずつ本人の状態をみながらサービスを開始していくようにしている。はやくなじみの関係になれ信頼関係を築けるように支援していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護しているだけのイメージではなく大先輩から教わることも多い。共に生活を楽しんで支援していくようにしている。共に暮らす同士として本人の思いを共感していくように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は気軽に出入りしてくれており日ごろから情報交換も密に行っている。家族の力は大きく、本人をみんなで支援するという考えの下努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方にはいつでも気軽に面会していただいている。日頃の状態をこまめに報告・相談したり、本人の家庭での情報を聞いたり、なごやかな雰囲気での関係作りの潤滑油になれるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にはなじみの友人や知人などに会いに行ったり訪問してもらえるようお願いしている。家庭の延長としていろいろなつきあいが続けられるようにと支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して、良い雰囲気でお互いが関わりあえるように見守ったり、個別に相談にのったりしている。お互いのできることはして、お互いを認め合い、毎日を楽しくすごせるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当する利用者様は今のところいないが、今後継続的な関わりを必要とする利用者様とご家族には経過をフォローして相談にのっていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何をしたいかやどのように暮らしたいかなどを日々のかかわりの中で聞くようにしている。うまくいえない場合は日々の行動や表情から希望をさぐる。また家族の方から聞きだしたりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や生活環境などを聞き把握するようにしている。家族や知人の面会時などにもいろいろな情報を得てできるだけ利用者様の希望に添った暮らしに近づくように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方は表に記入しその時の本人の希望することや感じていることなどを考えていくようにしている。またできることとできないことも把握していき、その人全体を知るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望を良く聞き、ご家族の面会時には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞くようにしている。アセスメントを含めスタッフ全員でのカンファレンスやモニタリングを行い、意見やアイデアをできるだけ取り入れて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行っているが、利用者様の状況が変化したときには随時、本人、家族、スタッフとカンファレンスを行い、現状に即した計画を作るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、VS、食事量、排泄状況、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。又そのほかに日勤、夜勤、早出、遅出などの勤務者からの申し送り事項を記入したもの、気づきノートなどあり勤務開始前には必ず目を通すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制、24時間健康管理のほかに本人や家族の希望により陶芸への参加、買い物やお花見などの外出時の移送サービスを行っている。また音楽療法も毎月一回行っており隣接する通所リハや医療施設の行事に参加し交流をもっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様がより充実した豊かな生活が楽しめるように民生委員の方の訪問や家族や知人、ボランティアの方の協力を呼びかけていろいろな交流を行っている。市の図書館を利用することもある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の美容師さんが毎週病院に訪問してくれるので希望者は随時利用している。利用者様の希望や状況により髪パンツ、尿取りパット、杖、靴、歩行器などを扱う業者も2箇所随時利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当運営推進会議で地域包括支援センターの職員が出席していることもあるが利用者の権利擁護については十分に気をつけている。今後必要に応じて相談する予定である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医に希望に応じて対応している。隣接する医療機関以外の受診は基本的には家族同行の受診になっているが、不可能なときは職員が代行するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇に関してはお一人お一人を尊重した言葉掛けや対応をスタッフ全員徹底するようにしている。カンファレンスなどで意識向上を図るように努めている。プライバシーを損なわないように声かけや誘導をさりげなく行うようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に合わせて声かけをしできるだけ本人が希望や意思決定ができるように働きかけをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるができるだけお一人お一人のペースに合わせて対応している。本人の体調に配慮しながら、その日、その時にしたいこと、希望する事を優先して一日を過ごしていけるように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しては本人ができることは見守りで、必要なところはお手伝いするようにしている。理・美容は本人の希望するようにしている。外出時などはおしゃれや化粧などを楽しんでもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれのできる事を一緒に手伝ってもらっている。食事のメニューなども嗜好調査で希望を聞いたり楽しい雰囲気でお食卓を囲めるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員はお一人お一人の嗜好物を知っており、好きなおやつは日常的に取り入れるようにしている。たばこについては現在喫煙者はいない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人お一人の排泄状況を把握しできるだけ本人にあった快適な支援が出来るように努めている。尿意をうまく訴えられない利用者様には排泄パターンをチェックしてトイレ誘導やトイレ介助を行っている。失禁時は自尊心を傷つけないように対応に気を付けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせているが入浴好きの方が多いためスタッフの人数調整も行いながらできるだけ希望に添えるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。また場合によってはお一人お一人の体調により医師と相談の上睡眠、食事、薬剤のあり方など全体的な調整に勤めている。夕方の過ごし方は各個人別に就寝に向けてできるだけ穏やかで安心してすごせるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人ができること、得意分野を探し、お願いできそうな仕事を頼んで、感謝の言葉を伝えるようにしている。買い物や外出レクなどしたいことを利用者様と相談しながら楽しみや気晴らしの支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクでは利用者様の力量にあわせてマンツーマンで付き添って個別に適した対応をして買い物を安心して楽しくできるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日は車椅子の方もみんなで散歩に行き季節を肌で感じてもらう。またその時の気分や体調によって日向ぼっこや家族とのドライブ、図書館や買い物に行ったりなどお一人お一人の習慣や楽しみごとに合わせて心身の活性につながるように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様がどこに行ってみたいか何をしたいかなどは常々希望を聞くようにしている。ご家族に協力してもらったり、みんなで参加できるように企画している。(初詣、紅葉狩り、お花見、買い物、レストランで外食など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように各利用者様お一人お一人の力量に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は大歓迎でいつでも気軽にきてもらえるようにしている。日ごろの様子をお話したりアルバムをお見せしたり、利用者様とお茶をたのしんでもらったり、遠慮なく本人とご家族だけでゆっくりと過ごせる時間をつくったりと、状況に応じて支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全スタッフがその人の人権を守り「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢で取り組んでおり実行している。いろいろな問題点が出てきた場合は随時ケアカンファレンスやミーティングで検討し点検していくようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様お一人お一人の行動パターンを把握して外出のくせや傾向をつかむようにしている。リスクのある場合はスタッフの連携でさりげない声かけや見守りを強化している。毎日を安全で楽しく自由にすごせるように日中は鍵をかけずに支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の行動パターンを把握し、調理や記録時など見守りができるように目配り気配りに努めている。常に安全に配慮し普段と違った言動が見られた時は特に見守りを強化していく。自室で長時間過ごしている時はさりげなく声かけしたり、プライバシーに配慮している。夜間の巡視も行い24時間利用者様の安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様お一人お一人の状況に応じて危険なものは保管管理しているが、必要と思われるものはできるだけ家庭と同じような状態で使用できるように安全に使用できているかを見守りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月ケアカンファレンスで事故防止について話し合っている。転倒、転落に関してはアセスメントをとり、利用者様全員の防止対策をたてている。随時インシデント、アクシデントレポートに記入し、事故の時はその原因を分析し今後の防止策を検討するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、骨折、発作、誤嚥、意識不明時の対応については開設前に勉強会をしマニュアルを作成している。事故発生時は緊急時マニュアルに沿って24時間体制で直ちに隣接する医療施設に連絡し医師の指示を受けるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に(年2回)職員は隣接する医療施設の防火訓練に参加し消火器の使い方の訓練は行っている。これまで28年間医療法人末広が運営する施設で離院した時など地元の方々にも十分にお世話になっていた。これからも同じと思う。	○	消防署の協力を得て定期的に利用者と共に避難訓練や避難経路の確認を行い、地域の方の協力体制も築いていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月ケアカンファレンスやミーティングで利用者様お一人お一人のリスクについて話し合いをし、それに対する対策をたてている。ご家族には随時おこりうるリスクについて説明するようにし取り組みかたを理解してもらうようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝VSのチェックや一般状態の観察を行い異常の早期発見に努めている。変化があれば直ちに管理者に報告し状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルにとじており内容は職員が把握できるようにしている。服薬の確認も行っている。状態変化の観察に努め、必要時は医師の指示を受けるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操などで毎日を動かしたり、繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。食事、排泄、活動状態を見直しながらできるだけ自然排便を促しているが、必要時は医師の指示を受けながら下剤や座薬、浣腸などを随時使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後に全員口腔ケアをおこなっているが本人の習慣や能力に応じた支援を行っている。入れ歯の方はポリドントで洗浄している。	○	口腔ケアの必要性を職員全員が理解し、毎食後、ケアしていくようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みやなじみの物などを生活スタイルにあわせて用意したり、写真や時計、ラジオ、テレビなど本人が家庭のように居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食事の後やにおいが気になるときは随時換気している。冷暖房も利用者様の様子を見ながら調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じて洗面台周囲に手すりをつけたり、ベッドの下に滑り止めのじゅうたんを敷いたりしている。本人の使いやすいダンス、いす、ソファ、シルバーカーなども使用しているが、常に安全確保と自立への配慮をするようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	建物の設備や物品については、本人にとって何がわかりにくいのか、できないのか、どうしたら自分でできるのかを考えて混乱や失敗がないように物品や環境面での整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	晴れた日は建物の外回りをみんなで散歩したり、ベンチに座って日向ぼっこや庭木をみてくつろいだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム無量寿では認知症の方が少人数で家庭的な環境のもと、地域の方々と交流を持ちながら共同生活を送り、専門スタッフによって、食事、入浴、排泄などの介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行い、一人ひとりの方ができる限り自立した生活を営めるように支援しています。無量寿は故郷、山茶花の2ユニットで木の香が清々しい和風木造家屋です。環境設備面はすばらしくスプリンクラーの設備や居間には暖炉があり、廊下や浴室以外にも自室の必要な箇所に手すりや滑り止めのじゅうたんが設置されています。周囲には多くの庭木があり、四季の彩りをそえています。毎日、食事やおやつ作り、掃除や洗濯などの家事、四季折々の景色が楽しめる自然いっぱいの中での散歩やいろいろな体操など毎日を楽しみながらゆったりと暮らしています。「お一人おひとりを大切に、楽しく生き生きと、安心した暮らしができるようにお手伝いします」が介護理念です。また、健康管理や医療対応においても、すぐ近くに病院が隣接しており安心です。今までの家庭での生活に少しでも近づけるように本人の希望や趣味などを生かして日々の生活に取り入れています。地域の方々、民生委員の方々、地域の保育園の子供たち、ボランティアの方々との交流も多く、利用者様の笑顔が一つでも多く見られる支援に努めています。